




收受年月日	議長	事務局長	書記
5.12.1			
第 8 / 号			

令和5年12月1日

埴町議会議長 割貝 寿一 様



経済常任委員会委員長 七宮 広樹



委員派遣結果報告書

本委員会は、下記のとおり行政視察を実施したので、その結果を報告します。

記

- 1 目的 徳島県上勝町行政視察について
- 2 経過
 - (1) 派遣期間 令和5年11月6日(月)～8日(水)
 - (2) 派遣先 徳島県上勝町
- 3 派遣委員
七宮広樹、鈴木元久、鈴木 茂、吉田広明、金澤太郎、割貝寿一
(随行者：議会事務局長、書記)

- 4 視察内容
ゼロ・ウェイストと葉っぱビジネスについて

5 結果

(1) 所見

徳島県勝浦郡上勝町は、埴町の半分程の面積で山林面積が86%、人口1,398人・高齢化率50%以上、徳島県で最も小さな町であるが持続可能な取り組みと、高齢者等が活気あふれる暮らしを実現している魅力ある町として、行政視察先に選定した。

ゼロ・ウェイスト

上勝町は、焼却・埋め立てごみをできる限り減らし、なおかつ処理にお金がかからないよう考えた結果ごみを13種類45分別し、リサイクル率80%を達成している。

町にはごみ収集車は無く、町民は自家用車で町内一ヶ所、ゼロ・ウェイストセンター内にあるゴミステーションまで持ち込み、町内のごみは全てここに持ち込まれるが、生ごみの受け入れはせず、町民が自分でリサイクルできる唯一

の資源として堆肥にする。各家庭ではコンポスト・電動生ごみ処理機（購入補助あり）・バクテリア de キューロが普及し、事業所では大型電動生ごみ処理機で堆肥が作られ活用されている。

葉っぱビジネス

主要のみかんが低温被害で全滅し、新たな視点で生まれたビジネスで、テレビや雑誌などでも取り上げられ視察者も多いと聞く。生産者は150人ほどで、年間2億4千万円から2億6千万円を売り上げている。

料理を引き立てる「妻もの」と呼ばれる販売品目は「もみじ」の葉や、桜・梅・桃の花枝など320種類もある。販売システムは第3セクターの株式会社いろどりが朝、全国から注文を受け生産者に発注する。生産者はタブレットやパソコンで早い者勝ちで受注し、製品をパッケージして正午までにJAに届け、JAが全国に発送する仕組みである。（手数料はいろどりが5%、JAが2%）

その後、この道30年・86歳の現役女性から、今に至るまでの話を聞く事ができた。現場の声を聞く事でこの視察研修がより内容が濃いものになったと感じている。

最後に、特色ある事業を展開している地域（市町村）の行政視察には、議会議員はもとより町職員の課長補佐や係長の担い手が同行し、共に見識を広め学ぶ事こそが埴町発展に役立つ行政視察だと思う

（2）委員報告書

別紙のとおり

收受年月日	委員長	事務局長	書記
5.11.21	議 員 派 遣 調 査 委 員 長	議 員 派 遣 調 査 委 員 長	調 査
第 号			

様式 1

令和 5年 11月 21日

議会議長

委員会委員長

様



提出者 鈴木元久

派遣目的 (調査等 名称)	経済常任委員会事務調査		
派遣の 日時	令和5年11月7日(火) 13:30~15:30	派遣先 (場所)	徳島県上勝町
内容	<p>① 上勝町のごみの分別</p> <p>② 葉っぱビジネス (彩事業)</p>		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>調査のまとめ</p> <p>上勝町は面積 109km², 人口 昭和30年には6200人いたが令和5年11月8日現在 1398人で徳島県で最も小さい町です。</p> <p>150件の農家の内 80歳~90歳の人が96人いるそうです</p> <p>① ごみの分別 13種類 45の分別 (平成15年開始)</p> <p>缶類は アルミ缶, スチール缶, スプレー缶, 金属製のキャップ。びん類は透明びん 茶色びん, リサイクルびん, その他のびん, その他のガラス類 又割箸も分別されています。</p> <p>ゴミ収集車が走る町。リサイクル率は8%。生ごみはコンポスト利用, (補助金有り)</p> <p>② 葉っぱビジネス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉っぱを売るというユニークな発想が年商2億6000万円を超えるまでにはなった。 ・年収1000万円を超える農家まで現れた。 ・昭和30年に横石知二さんが立ち上げ、昭和32年に寒波によりみかんが全滅し昭和56年は林業から農家へみかん畑と棚田で現在は葉っぱ事業へ ・花木農家は4人で始まった現在は45人に(13名)第3セクターを立ち上げた ・苗木の半分は補助金が出ている。 ・カキの葉 1枚 86円 1パック 860円。ハズ葉 レンコンの葉 1枚 100円, 南天 1パック 300円~350円 ・320種類はあり、西蔭幸代さん(86歳)は 100種類ほど出荷しているそうです ・今後11月は忙し 特に12月5日からは大変忙しくなるそうです。 ・地域おこし協力隊の制度を使った移住促進の利便を使った上勝町。 ・合同会社パンダ代表 野嶋聡さん(5歳)は愛知県から移住された人でした。 		

収受年月日	委員長	事務局長	書記
5・11・14			
第 号	議員派遣	委員派遣	調査研修等報告書

様式 1





令和 5 年 11 月 14 日

議会議長
 経済常任委員会委員長七宮広樹様



提出者 鈴木 茂

派遣目的 (調査等 名称)	経済常任委員会行政視察研修報告書		
派遣の 日時	令和 5 年 11 月 7 日	派遣先 (場所)	徳島県上勝町
内容	<p>ゼロウエストと葉っぱビジネスについて</p> <p>徳島県上勝町(面積は埴町の半分、標高は 100 メートルから 700 メートル山林面積は 86%人口は 1400 人そこそこ、高齢化率は 50%以上)はゼロウエストを実行しており生ゴミ排出ゼロ(コンポスト補助)である。又その他のゴミは 45 種類に分別しリサイクル率は 80%を達成している。</p> <p>葉っぱビジネスは主要な作物のみかんが低音被害ですべて枯れたのを契機として始まった。現在は全国から注文を受け生産者 150 人、年間 2 億 4 千万から 2 億 6 千万を売り上げている。ツマモノと呼ばれる販売品目は有名なモミジの葉や桜梅桃の花枝など 320 種類になる。販売システムは第 3 セクター(株)のいろどりが朝全国から注文を受けすぐさま生産者に発注、生産者はタブレットやパソコンで早いもの勝ちで受注する。生産者は 12 時までに製品をつくり JA に届け JA が全国に発送する仕組みである。手数料はいろどりが 5%JA が 2%とのこと出荷物は食べ物に添えられるものなので不良品などのクレームはないそうです。この道 30 年 86 才の現役のおばあちゃんの生の声を聞くことができました。その頑張りはもちろんのこと海外のマスコミなど 59 ヶ国から取材があり明日はフランスだということでした。所見として人口 1500 人未満の山深い町でお年寄りを中心として葉っぱビジネス 2 億円以上を売り上げる頑張りに敬意を表する次第です。以上報告致します。</p> <p>提出者 鈴木茂</p>		

收受年月日	委員長	事務局長	書記
5・11・13			
第 号			

様式 1

議員派遣調査研修等報告書

令和 5 年 1 1 月 1 3 日

経済常任委員長 様



提出者 吉田 広明

派遣目的 (調査等 名称)	総務及び経済常任委員会合同視察研修報告書		
派遣の 日時	令和 5 年 1 1 月 6 日～ 8 日	派遣先 (場所)	徳島県 / 神山町・上勝町
内容	<p>1、神山町 創成戦略「まちを将来世代につなぐプロジェクト」</p> <p>2、徳島木のおもちゃ美術館</p> <p>3、上勝町「葉っぱビジネス」</p>		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>1、神山町「まちを将来世代につなぐプロジェクト」 2014年地方総合戦略の検討を開始、2015年12月策定、創成戦略は49歳以下で、職員と民間の50%構成でプロジェクトを策定した。「アイデアは既にあるものの新しい組み合わせである」をコンセプトに、実行と意欲と力のある人を明確に存在することを確認しながら、「一般社団法人神山つなぐ公社」を設立。住居、学校と教育、多様な仕事、富が流失しない、安心して開かれた関係の町として移住定住を促進し、将来人口の社会的増加 / 年11人を狙っている。山間部の山合いに建築家の学生がデザインした建物があり、新しい風が吹いているのを感じる。埴町も本気で移住定住促進を進めるべきで、成り行きの未来の人口予測をしては、何も生まれない。<u>神山町に職員を研修派遣すべきである。</u></p> <p>2、徳島木のおもちゃ美術館（あすたむらんど徳島施設内） 徳島県の管理施設であり（株）あわわ運営。令和4年度年間 / 147,455人、開設から280,941人。来場者数には、あすたむらんど徳島の遊戯施設、科学館、プールなども含まれる。埴町湯遊ランドの木造宿泊施設に展示の一部を開設をすればと考えたが、管理や遊具の定期的消毒などの衛生管理に注意が必要で、大規模でなければ効果は生まれない。</p> <p>3、上勝町「葉っぱビジネス」 狭い谷間にある人口1,398人、734世帯の2村合併の町であった。以前はみかん栽培をしていたが冷害で全滅し、苦悩していた時に農協の営農指導員だった横石知二氏、現在（株）いろどり代表取締役が切り拓いた事業である。調査能力に長けていて、町の産業までにした。地域振興、高齢者福祉、ICT、SDGsを認識している。葉っぱ移住者も受けいてれている。全国100出荷先売上の60%シェア確保。職員も見聞すべきである。</p>		

埴町議会

収受年月日	委員長	事務局長	書記
5.11.20	議員派遣 委員派遣	閉 楨	調査研修等報告書
第 号			

様式 1

令和 5 年 1 1 月 2 0 日

議会議長
委員会委員長 様



提出者 金澤 太郎

派遣目的 (調査等 名称)	行政視察研修		
派遣の 日時	令和 5 年 11 月 6 日 令和 5 年 11 月 8 日	派遣先 (場所)	神山町・木のおもちゃ美術館・ 上勝町
内容	1) まちを将来世代につなぐプロジェクト・ 移住交流事業・サテライトオフィスの取り組み (神山町)		
	2) 徳島 木のおもちゃ美術館		
	3) 葉っぱビジネス (彩事業) (上勝町)		
	1) 神山町視察		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	まちを将来世代につなぐプロジェクトは、町が企画して始まったプロジ ェクトとのことであった。立ち上げに際しプロジェクトメンバーに 49 歳 以下の町出身者・移住者半々の割合でメンバー構成をしたとのこと。 町出身・移住者を合わせ、かつ若い世代を中心としたことで、活発な 意見交換が行われ、行政中心では単年度で切れ目が入ってしまうところを 早々に公社化して、プロジェクトの継続性を確保できたことが成功の鍵 だったとの印象を受けました。行政が出すぎず、放置もせず、民間の意見 をスピード感を持って実行に移せたことが是非見習っていくべきところ と感じました。		
	当町でも数年前久慈川桜並木推進協議会が結成され、神山町同様、グル ープディスカッションを皮切りに会議を行いました。任意団体から参加		

した若い方が活発に意見を出していたことが印象に残っています。当町の協議会の場合は、県の助成事業を確定する単一目的で実施されましたが、神山町のように、会議体事態の意見を組み入れて実行に移せるのであれば、若いやる気のある町民がいる点では神山町に劣る物ではないと感じています。

当町でも、若い方の意見を具体化するためのフォローアップがスムーズにできる体制があれば、にぎわいであったり、移住者の呼び込みであったり、首都圏に近い地理的条件からすると可能性は大きいのではないかという期待を持ちました。

町に働きかけ、若い世代のアイデアを具体化する施策を模索していきたいとの思いをあらたにさせられました。

また、神山町の移住交流事業・サテライトオフィスの取り組みは、つなぐプロジェクトからの派生での成功例のように受け止められました。

町主導で高速インターネット環境だけあっても今のような成功はなかったのではないのでしょうか。若者定住用の子育て世帯専用の集合住宅を建設するなど、移住を希望する人、子育て世代が欲していることを絶妙なバランスで実現できたことの結果だと思えます。

もう一つ、一番印象に残ったこととしては、移住者の求める職種を限定していない点が良いと感じました。私自身も、農業をしたい人、林業をしたい人等、職種を限定して考えてしまっていたなと反省させられました。サテライトオフィスが前提で移住を決めたわけではなく、様々な仕事をしている移住者がいらっしやり、限定した職業を求めてくる人は少数で、つなぐプロジェクトから派生した様々な施策がいろいろな思いで移住を考えている人に認められている結果だと思えます。

神山町の KPI 設定も、町全体の人口動態にのみ数値設定しており、単一事業での KPI を求める設定ではない点がプロジェクトに膨らみを持たせ成功に至った要因と考えられます。当町でも KPI 設定は見習うべきものがあると思えます。

2) 徳島 木のおもちゃ美術館

木育の観点からの参考になればと思い研修に臨みましたが、今回の研修で印象に残ったのは、古くなった施設の改修に迫られ、木のおもちゃ美術館が作られた経緯にありました。

旧来の施設が古くなり建物そのものは使える場合、基本的に中を新しくするだけで終わってしまうことがほとんどと思われます。しかし、今回徳島県では、施設の改修にあたり、今回視察した施設を含む敷地内他施設を全体を林業を担当しない課が担っていましたが、所管外の林業担当課に担わせたことで、単なる改装に留まらず、施設全体に新たな価値を創造したことにあります。

利用が極端に減った施設などはこれから発生するものと思います。建物が傷みすぎてしまう前に新たな利用価値を創造することは、何らかの需要がある場合には、素晴らしく有効な手段だと思います。無理に何等かの需要を絞り出す必要はありませんが、木のおもちゃ美術館を創造したアイデアは素晴らしいものと思います。

壊すか繕うかではなく、創造したことは今後の参考に是非したいと思います。

3) 上勝町視察

葉っぱビジネスの仕組みをよく理解できました。後出しで妻物市場への参入をしようとは考えませんが、出荷をする方からの商品の収集方法が直売事業でも活かせるところもあるのではないかと感じさせられました。

直売事業の場合、販売数量が確定しているものではなく、仲買も存在しないので集荷した全量の販売確約ができない点は難点ですが、出荷者とその点を納得できる、また販売主体が売れ残りを上手に活用できるというような2点が解決できれば道の駅でも、出荷者に生産量アップを図ってもらえる可能性があります。

生産量アップによる収益のアップを図れるのであれば、当町でも農業が産業とし

て十分な役割を果たしていけるものと思います。

地場企業は別として大手企業は、進出もするが撤退もします。当町でも、大きな企業が撤退し、過去何度も痛い目を見ていることを考えると、常々テーマとしている農業を主産業にした町づくりを目指せるのではないかと希望を持ちます。

言葉は悪くなりますが、葉っぱビジネスは隙間産業だろうと思います。しかし、私たちでは気が付かないアイデアであり、市場が無かったところに市場を生み出したことが一番の成功の秘訣だろうと思います。

当町生産品は市場もある農産品がメインとなりますが、バイヤーである道の駅が販売力を持ち、一定量以上の供給をできる体制が確立できれば、埴町は農業で独立できる町になる素養はあると思っています。そのためには、農地を農地として維持し、埴町産農産品のブランドを確立し、若者が農業に興味を持てるようになれば、一次産業が本当に町の主産業になれるものと思います。


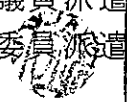

また、生産農家の方の話を伺って思ったこととしては、全体でフォローできる体制を作り、個人個人が各自の生活スタイルに合わせ無理をしないことで、長続きして成功した秘訣だろうと思います。

少し良くなりたい思いが、結果として想像以上の成功を見たビジネスモデルだろうと思います。

他)

今回の視察で感じたことは、行政よりも民間の方が危機感を持ち前に前に進もうという気持ちが強い印象を受けました。

当町の助成事業等は、助成が切れれば終わってしまうものが多いように感じます。商工振興費の仕組みの変更のように、受ける側の率先した要請に対し助成することが、事業の成功に結び付くものではないのかと感じました。 以上

收受年月日	委員長	事務局長	書記
5.12.		議員派遣 	書記 
第 号			

調査研修等報告書

令和 年 12 月 / 日

議会議長
委員会委員長 様



提出者 新貝 新一

派遣目的 (調査等 名称)	総務、経済常任委員会合同視察研修		
派遣の 日時	令和5年11月6~8日	派遣先 (場所)	徳島県 神山町、上勝町
内容	神山町創生戦略について 葉, はっ葉びんねんについて		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>神山町、面積173.3km²、人口4,817人、高齢化54.41% 特産、神山町だちだち状高齢化に対し年々減少、平成16~17年度 光ファイバー網を町内全世帯に引き込みインターネット環境の 整備、IP電話、地デジ放送始め 2011年以降サテライトオフィスの開設が進み2023年4月末に 23社が進出(現在継続14社) 農業中心の自営業、大企業とない。収益として 道の駅、温泉(神山ホテル)はお通路も利用 農業者の高齢化にとどない2015年「まぶを将来世代に」 700プロジェクトが策定された</p> <p>上勝町、面積109.63km²、人口1,398人、734世帯、高齢化52.3% 山林が88%しめる。林業と農業(棚田とみかん栽培) 四国で一番小さい町。昭和56年の大豊波によりみかんの木が 全滅、昭和61年、はっ葉びんねんがスタート、平成11年 第3セクター(株)いろいろを立ち上げ、高齢者がPCや タブレットも駆使した受注で有名になり 生産者が植樹して育て収穫している 150件の農家で80~89才</p>		